

大手町～箱根～ 大手町までの追っかけ

中基 和宏 (H5・社会卒)

最近のお正月2日は大手町へ足を運んでいる。一昨年迄はスタートを見届けるだけであったが、昨年は校友を誘い大手町から小田原まで初めて襷を追いかけてみた。そして今年も追いかけて応援しようと思っていた。その矢先の師走の激震に仕事が手に付かない程のショックを受けた。TV観戦にするか迷った末、今年も応援に行くことに決めた。又、万が一嫌がらせをするような輩がいたら、選手を守る覚悟でもあった。

そして正月2日の往路、出発1時間前に大手町へ到着した。今年は23校が出場する事もあり歩道はどこも大混雑、各校の応援合戦もすごい。今回なるべく直接声が届く場所で応援しようと思い、大手町での応援は諦め内幸町に移動した。間もなく集団をひっぱり若松選手が現れ一瞬で目の前を駆け抜けた。2区は山本浩之君を保土ヶ谷駅前の見通しの良い場所へ応援。山本選手は足の疲労骨折で15番手を競り合いながら通り過ぎた。次は3区の大西智也君の応援は時間的に無理と諦め4区の宇野博之君を大磯駅付近で応援した。エース大西が9位まで順位を上げた襷が3位集団に合流するのは時間の問題と思えた。次の5区は箱根の大平台駅へ向い神奈川校友会の吉田さん達の応援に合流予定であった。すると間もなく坂道を駆け上がってくる柏原竜二君一人が中継用バイクと共に見えた。山道は狭いのですぐ脇を険しい表情の柏原選手が平地のような力強いスピードで走り過ぎた。周りの皆が一様に大音量の声援を柏原君



6区富永選手・10区高見選手と(慰労会で)

に送ってくれていたのが嬉しかった。その後友人達からメールと電話で、ついに東洋大学史上初の往路優勝を知った。

翌3日の復路は、箱根人生田駅前でも応援している神奈川校友会に合流し、6区富永光君を応援。7区は大磯にて飛坂恭介君を応援、富士山をバックに早大を追撃する姿が印象的だった。電車で8区の藤沢へ移動。千葉優君は途中から合流したベテランの追っかけ校友達と応援、早大を従えて力強く走る姿に感動した。9区は横浜駅前から大津翔吾君を応援、単独1位で颯爽と広い国道の真ん中を大声援の中を走っていった。そして最後の10区は大手町のゴール約200M程手前で応援。ゴール予定の1時間位前だったが、この2日間見たどのランナーよりも優雅なフォームの高見選手が来た。まるでゴールが高見選手を吸い込んでいくような風景。背中を見送りすぐ追いかけたが、ゴールテープを切る瞬間は見られなかった。しかし大歓声とフラッシュで東洋大の箱根駅伝の67回目の挑戦で、初の総合優勝したことはその場で体感することができ本当に感動の瞬間だった。

来年は皆さんも沿道で応援したり、小生と一緒に追っかけて箱根駅伝を応援しませんか？

いただきました。校友会活動に関して道しるべとなってくださったことはもちろんですが、プライベートの面でも、我が家で隣人との地境の問題が起きたときには、適切なアドバイスをくださり、いつでも相談に乗るよと言ってくくださったことが、今でもありがたく心に残っています。

田中さんはいつものとおり、じゃあね、と言って片手を振りながら天国へ行ってしまわれましたが、大きな心残りは、箱根の優勝を共に喜ぶことができなかったことです。それは田中さんにとっても、長い校友会生活の中で唯一の心残りであったのではないかと思います。母校の活躍はきっと、天国から見守っていただけることでしょう。ありがとうございました。

合掌

沖山英子 (S41・社会卒)

公私ともに お世話になりました

賀詞交歓会で、田中先生にお会い出来るのを楽しみにしていたところ、先生の計報に接し、ただただ、驚くばかりでした。

城東支部の集りで、先生にお会いするようになり、十数年の月日が経ちますが、沢山のことを教えて頂き、また、相談事にも乗っていただいたことが、涙と共に走馬燈のように思い出されます。先生は、支部の仕事、後輩の面倒など良く見てくださり、社会のことや経済のことにも、精通していらして、良き知識人でした。

先生に何でもお聞きすれば…と頼りにしておりましたのに、淋しく心細い限りです。

長い間のご指導に心から感謝の気持ち一杯です。ご冥福をお祈り致します。合掌

佐野秀子 (S42・短大国語科卒)

林家時蔵師匠の今後の日程

昨年10月23日、芸人生活35周年林家時蔵独演会が深川資料館ホールで開かれた。

定員232席のところ270名程のお客様に、急ぎ椅子を並べるといいうれしい悲鳴。

前座に続いて師匠の「居酒屋」、ゲストの鶴光師「鼓ヶ滝」、仲入り後、喬の字が「家見舞」、ゲストのさこみちよさんの「江戸の唄」、そして師匠のトリは「苦心の管絃」。

久しぶりに古典を堪能した。

- ・6月18日(木) 18時開演 林家時蔵落語会 (江戸東京博物館ホール)
- ・7月9日(木) 19時開演 第86回林家時蔵独演会 (日暮里サニーホール)
- ・10月8日(木) 19時開演 第87回林家時蔵独演会 (日暮里サニーホール)
- ・11月14日(土) 13時30分開演 東洋大学文化公演会 (井上円了ホール)

人間味は音楽が原点！

松丸 重蔵 (S40・経済卒)

40余年勤務したJA(農協)を昨年任期満了した。ふと入職当時の残像が脳裏をよぎるが、あのカントリーバンドで明け暮れた大学時代。一転してJAという、とてつもない業態への入職だから当然のことだったけどー。

金融、経済、共済、指導等々総合的な各事業にすべて関与し、日夜取り扱うのだから半端でなかった。幸い多くの農家組合員、地域住民、職場の先輩・同僚に恵まれたことは、至極光栄だったと感じている。

とりわけ大学時代のカントリーバンド(ファニーマウンテンボーイズ)の面々や全国からの音楽好きのアスリート達、彼らとのセッションが、JAでの活動力や気迫・勇気をいやが上にも掻き立ててきたと自負している。

また、JA退任後も不思議と音楽に対するロマンとビジョンを懐くことによって、憧れの諸氏から囃らずも作曲活動の推奨を賜り、

身に余る思いである。

先般、(社)日本作曲家協会へのコンタクトをいただき、所定の手続きを踏めば会員資格が得られるものと安直に考えていた。ドッコイ、入会審査会の厳しいチェックが待ち受けていた。何と市販のレコード、CD等が出版されていること。自筆のコード・ネーム、ピアノ・伴奏付き楽譜(大譜表)を提出することが条件となっている。さらに作曲家数名による専門的相談だった。辛うじて入会の許可をいただく。

その後、作曲家協会の一泊研修会では、多くの著名な先生方と夜の更けるのを忘れて懇親、酌み交わすひと時となった。年齢や肩書きで人を判断せず、情熱あふれる感性とひたむきな活躍ぶりに、改めて感動することしきりだった。

曲を作るということは、その枠の中で心の遊びが自由なマインドとなって、作風を広げる契機となるものと確信することができた。やはり人間味は音楽が原点と思っている。

